

札幌市北区との健康なまちづくりに関する地域連携協定を締結

創成看護学分野 准教授 平野 美千代

2018年11月20日、本学保健科学研究院と札幌市北区との間で、「健康なまちづくりに関する地域連携協定」を締結いたしました。締結式は本学保健科学研究院(以下、保健科学研究院)で行われ、札幌市北区(以下、北区役所)からは村山区長をはじめ、関係部署の部課長ならびに係長、係員の皆様が出席されました。また、本学の教職員のほか多数の院生も出席し、締結式終了後は北区役所の関係職員の皆様や北区の健康なまちづくりキャラクター「ぽっぴい」と交流を図りました。

この協定は、保健科学研究院と北区役所が相互に連携し、北区における健康なまちづくりを推進することにより、北区民の健康増進に寄与するとともに、相互の発展に資することを目的としています。連携事項には、(1)北区における健康なまちづくりに関するデータの収集・分析、施策の企画立案・実施・評価及びこれらの公表に関すること、(2)学生や教員の健康関連事業への参加協力等、北区の各種関係機関や住民との協働によるヘルスプロモーション活動の推進に関すること、(3)人材育成及び相互交流に関すること、等があります。健康に関して、保健科学研究院では全ての予防レベル、全てのライフステージを対象に研究がなされ、研究対象も細胞、人、コミュニティ、環境と多様です。健康に関する研究や実践実績の豊富な保健科学研究院と、区民の健康や生活のニーズを把握し第一線で活動をする北区役所が連携を図ることで、効果的かつ効率的な健康づくり活動を展開できると考えます。



▲札幌市北区との健康なまちづくりに関する地域連携協定の締結



▲締結式終了後、北区の健康なまちづくりキャラクター「ぽっぴい」と交流を図るための記念撮影

「健康なまちづくりに関する地域連携協定」は、昨年度より実施している保健科学研究院と北区役所との共同による研究が契機となりました。保健科学研究院では介護予防活動における社会参加について研究を推進したいと考えておりました。一方、北区役所は介護予防教室のプログラムを効果的なものにしていくため、参加者のニーズ調査の必要性を感じていました。両者で協議した結果、保健科学研究院は教員のほか院生も参画し、北区役所は保健師をはじめ、区内の関係機関と連携し調査を実施することになりました。本調査結果は介護予防教室のプログラムの評価や修正を検討する貴重な資料となり、あわせて、この教室の効果を量的データとして示すことを可能にしました。この共同による研究は引き続き行い、介護予防教室参加者の心身及び社会的状態の変化をみていく予定です。

「健康なまちづくりに関する地域連携協定」のもう1つのポイントは、連携会議にて保健科学研究院と北区役所が北区の健康課題ならびにヘルスプロモーション活動に向けて協議することです。協議を重ねながら、「健康なまちづくりに関する地域連携協定」による実践を展開していくことになります。共に考え、共に実践できる関係性と体制をこれからも維持し、ヘルスプロモーションに関する研究ならびに実践を積み重ねていきたいと考えております。